

トイレ動作介助量軽減につながった  
直腸癌術後の症例  
～ニーズに沿った介入の効果～

ゆきよしクリニック

作業療法士 鶴巻 恵理子

## 【はじめに】

今回、直腸癌手術後から抑うつと活動性の低下を起こした症例に対し訪問リハビリテーション(以下訪問リハ)を行い、トイレ動作の介助量軽減へと繋がったため、その経過を報告する。

# 【症例紹介】

- 1) 名前、年齢、性別：A様、90代、女性
- 2) 介護度：要介護2
- 3) 診断名：直腸癌
- 4) 現病歴：H22.8 直腸癌発見、入院治療し手術施行。  
H22.10 退院し自宅へ帰るも廃用と術後の痛みあり抑うつ傾向がみられた。
- 5) 生活歴：病前生活は、ADLはほぼ自立。
- 6) 在宅サービス：訪問リハ(週1回)

# 【評価】

## 1. 身体機能評価

- 1) 筋力: 両下肢、体幹に中等度の筋力低下
- 2) 疼痛: 肛門周囲に持続的痛み、排便時痛
- 3) 日常生活活動: **Barthel Index 55点／100点**
  - ・ポータブルトイレ移乗時立ち上がりと方向転換に臀部引き上げ介助必要。

## 2. 精神機能面

- ・表情暗く、「何もしたくない、テレビもみたくない」と悲観的。
- ・認知症: 軽度あり。

## 3. ニーズ

「人の手を借りずトイレに行きたい」

# 【問題点】

## ＜問題点の抽出＞

- ・直腸癌術後の痛みによる抑うつ状態があり、活動への意欲低下。
- ・日中臥床傾向で筋力の低下がみられる。



## ＜介入目的＞

疼痛状態を確認し、トイレまでの移動の獲得を図る。

# 治療計画

- ①疼痛の観察
- ②関節可動域訓練
- ③筋力訓練
- ④ADL訓練(トイレまでの動線の確認、  
トイレ動作の確認)
- ⑤福祉用具の検討

# 【治療経過】

肛門周囲の痛みあり  
筋力低下

下肢筋力訓練・立位訓練  
車椅子レンタル

トイレ移乗と立位安定  
車椅子移動自立

歩行訓練  
歩行器レンタルしトイレまでの動線確認

トイレまでの移動見守り、移乗自立

# 【最終評価】

## 1. 身体機能評価

- 1) 筋力: 両下肢、体幹筋中等度～軽度に改善
- 2) 疼痛: 動作時痛, 安静時痛消失
- 3) 日常生活活動: Barthel Index 85点／100点
  - ・トイレまでの移動見守り、便器移乗自立

## 2. 精神機能面

表情も明るく過ごされることが多く「外出はしてみたいが排便が気になる」「自分でできることはやってみたい」前向きな発言が聞かれる。

## 3. 介護度

要介護2→要支援2

## 【まとめ】

HosakaとAokiはがん患者の28%にうつが認められたと報告している。

本症例は直腸癌術後の痛みにより抑うつ状態となり、トイレ動作や移動に介助が必要となっていたため、ご本人のニーズに沿った介入をすすめた。

結果、下肢筋力が向上し、できることが増えたことで抑うつ状態の緩和がみられたと考える。そして、活動意欲が向上しトイレまでの移動が見守りで行えるようになり介助量が軽減したと考える。